

---

# 従姉のみわちゃん

荒木ヒロ

---

## 注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

### 【小説名】

従姉のみわちゃん

### 【コード】

N5736C

### 【作者名】

荒木ヒロ

### 【あらすじ】

太郎ちゃんの従姉、みわちゃんの話です。

その日、山村太郎の従姉の「みわちゃん」はテニスの部活を暑いからという理由でサボリ、あついあつい言いながらマンションに帰宅する。すぐ靴を脱いで、ほかほかの靴下も脱ぎ、素足になって、すすしと歩きリビングに入りソファにカバンを投げつけた。それから台所に向かう。麦茶を注いでいたら、同居人で従妹の「太郎ちゃん」の部屋から変な声が聞こえた。そのせいで、べべちゃと台にこぼしてしまった。あば〜と思い、手のひらで伸ばしておいた。早く乾かせる作戦だったのだ。

声はこんなだった。

によあ〜いくよーっ！ ももんがももんがてきぱきてきぱきぐうたらぐうたらああ〜。

みわちゃんはもうずっと続いている暑さと冷房との温度差と、ねばついた湿気とで、とうとう太郎ちゃんの頭もスパークしたか〜、つうかぐうたらてきぱきてどっちやね〜んという冗談を言うのも馬鹿らしいから麦茶で引っ込め、もともと太郎ちゃんてああじゃん、という呆れをため息に変えてした。

壁掛け時計を見るとちょうど午後4時44分で、うーわどうしよ、あたし死んじゃうじゃんと思ひ、コップを置いてトイレを済ませ、やることもなく暇だったので太郎ちゃんの部屋のドアを隙間開けて勝手に覗いた。

自分の部屋は覗かれたくないとか言っただくせに、とんだ利己主義だと俺は思う。

太郎ちゃんが幾分レベルダウンしたその指摘をすると、理屈じゃないんだって、嫌なものは嫌なの、わかる？ やられてる太郎ちゃ

んが何とも思わなきゃ、別にいいじゃん、と返し、太郎ちゃんは、あゝ確かに、みわちゃん頭良いですね。

というやり取りになったから、特にみわちゃんが覗き魔でも問題はなく、このマンションの一室においては差し支えがない。みわちゃんは時々太郎ちゃんのトイレやお風呂を覗きたがったけどレズではないけど男は嫌いだ。そして、気分的には、ただちよつと覗いているだけらしい。人の好き嫌いというのはそういうものが多く、みわちゃんのはそれが少しばかり張り出して本質を隠していて、謎が大きいだけだ。みわちゃんには悪気もないし、それに、太郎ちゃんはその趣味を否定しないし拒否もしない。だからみわちゃんの覗き魔は今でも野放し状態になっている。

みわちゃんが太郎ちゃんの部屋を覗いたとき、太郎ちゃんは制服のままだった。二人の学校の制服は数ある高校の中でもかわいい部類にあるとJK好きの変態どもには評判だった。そいつらの変態性というか趣味も、みわちゃんの覗きと理由はほぼ同じようなものだったが、しかし与える効果が違う。学校沿線（通称工口電）はまさに穴場で、痴漢被害者が多いのだった。そのせいかみわちゃんは制服の6割方が嫌いで、というかそもそも服を着るのが嫌いで、基本的に全裸で過ごしている。

通学途中みわちゃんも、太郎ちゃんほどではないがショートでかわいいので、時々痴漢の標的になる。そうなると、みわちゃんは容赦なく相手の足を踏み骨を砕いたり手首をひねって脱臼させた。哀れ痴漢ども。

学校一の美少女である太郎ちゃんは何らかの魔力のようなものを持っていて、尻にも触れられないどころか、返って痴漢が不幸なめに遭うので大丈夫だった。

それか太郎ちゃんはみわちゃんと違い制服でいるのがわりと好きなので、部屋で着ていたとしても似合ってるし不思議じゃない。

問題なのはその行動だ。

ズバババガガガ。

太郎ちゃんはキーボードが壊れるくらいの速さと強さで何かをパソコンに入力していた。それにあの奇声。指がびゅしびゅし動きまくっていて、みわちゃんにはデカいアリか、もしくはクモの足の動きに見えたと言う。いかにも誰もが一度はやったことのあるでたらめ打ち「ふじこ」のようだったと。みわちゃんは目を細め、首ひねり、なんだ、あれ新手のストレス解消法かな〜とか思ってた。黙ってそのまま見ていたんだそう。

その2、3分後のことだ。

みわちゃんは太郎ちゃんの性癖（そのときは知らないが）を目にする。

はははー僕は森のももんがさ〜、今日はうさぎちゃん、やるーぜやるーぜ。いやー、だめっ今日は赤ちゃんできちゃう日だし、ももんがとうさぎがまざっっちゃだめ〜って、お母さんがあっちゃよほんのため、そんなとこなめちゃだって……。

みわちゃんは太郎ちゃんからエッチな言葉を聞いて、え嘘、危険日に交尾〜？とか太郎ちゃん美少女なのに、そんなこと考えてるの〜？と思った。それから少しドキドキしてきて、股関節がきゅっきゅうとしてきて、下腹部もきゅっきゅうとしてきて、何を隠そう今すぐオナニーをしたくなかった。

自然に息が荒くなって、男が乗り移ったみたいに自分の右手がパンツの上から性器をこすり始める。あだめ下着汚れる〜と思いがながらも、ももんがに犯されるうさぎちゃんを演じ続ける太郎ちゃんの艶やかな声を聞くと、右手はさらに乱れ、容赦なく暴れ、性器とパンツをべちゃべちゃに濡らせた。

次第に太郎ちゃんも本気になってきて、最後には髪を振り乱していき、机の上のキーボードに突っ伏してガクガクと震えた。すでに

パンツを横にズラして綺麗なピンクの性器を露出させ二本の指で膣をぐちゅぐちゅいわせていたみわちゃんも、太郎ちゃんがいったのと同時にいき、太郎ちゃんの部屋のドアにくたーっと倒れ込んでしまふ。それで、隙間ばかり開いていたドアがぱちつと閉まった。

ただれ？ みわちゃん？

太郎ちゃんがみわちゃんに気がついて、少し驚いてドアを開けて顔を見せたけど、目はトロンとしていて頬はぽつと赤く、みわちゃんも、床に力なく座り込むみわちゃんと股に入れられた右手を見て、うは、みわちゃんもこういうことするんだと思っただ。

液をたらたら床に垂らしていたのはみわちゃんだけじゃなくて太郎ちゃんも、椅子と下着と太ももを愛液でべちゃべちゃに濡らしていた。

おわり

従姉のみわちゃん

(後書き)

久しぶりの短編がエロくなってしまった。

# 広告募集中

小説関連広告に最適です。  
出版社や印刷会社はもちろん、  
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5736c/>

---

従姉のみわちゃん

2008年11月7日08時22分発行